

第2学年 国語科学習指導案

日時 平成27年10月29日(木) 公開授業Ⅱ

児童 2年2組 男子15名 女子14名 計29名

指導者 古館 千枝子

1 単元名 せつめい名人になろう

中核教材：「しかけカードの作り方」「おもちゃの作り方」

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、「C 読むこと」の指導事項イ「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。」及び、指導事項エ「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」について主に扱い、主となる目標を「作り方の順序や手順などについて、説明する文と写真を照応させながら読むことができる。」と設定した。

主教材「しかけカードの作り方」は、これまで学習してきている説明的文章とは違い、作り方の作業手順について解説している手順書である。また、文章だけでは説明しきれないところを、写真で補っているところも特徴的な文章である。さらに、絵や写真を用いながら手順に沿って述べる説明の仕方を身に付け、その能力を活用して「おもちゃの作り方」の説明書を書く内容となっている。何度でも本文を読み返し、挿絵に合う説明をするには、どのような言葉で説明をすればよいのか、また、大事なことはなんなのかを捉えて考える等、発展させることのできる教材である。

第1・2学年で順序を考えながら内容の大体を読み取る学習をすることは、第3・4学年での要点の把握や段落相互の関係を把握する学習につながる。そして、第5・6学年での要旨をとらえたり、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらい読んだりする学習へとつながっていく。

(2) 児童について

児童はこれまで、1学期「たんぼのちえ」の単元では、時間の順序や理由付けの言葉に着目し、説明的文章を読む学習を、2学期「どうぶつ園のじゅうい」の単元では、時間的な順序や事柄の順序を考えながら読み、感想をまとめる学習をしてきている。これらの学習を通して、時間を表す言葉に着目したり、問いやまとめの文を捉えたりすることができるようになってきている。

しかし、語彙の少なさや明確な理由を順序だてて説明できない等、自分の思いや考えを文章の内容と結びつけて内容の大体を正しく読み取り、豊かに表現することは十分とはいえない。そこで、時間的な順序や事柄の順序を考えながら正しく読み、理由を説明する際の表現の仕方を身につける活動を繰り返し行っていくことで、説明的文章を正しく読み、感想を話したり書いたりする能力が育つのではないかと考える。

(3) 指導にあたって

本単元では、「作り方の順序や手順などについて、説明する文と写真を照応させながら読む力」を身に付けるため、「おもちゃの作り方のせつめい書を書こう」という言語活動を位置付ける。

見通す活動については、教師が自作したおもちゃとその説明書を提示し、自分たちも作ってみたいという興味をもたせ、分かりやすい説明書を書く意欲を高める。

振り返る活動については、分かりやすく説明する工夫に触れてまとめをすることで、上手な説明書の書き方を理解させたい。

3 単元の目標

○ しかけカードの作り方に興味をもち、どのように書かれているかを整理しようとしている。

【国語への関心・意欲・態度】

◎ 作り方の順序や手順について、説明する文と写真を照応させながら読むことができる。 【読むこと】

○ 説明書のひみつをもとにして、「おもちゃの作り方」の説明書を書くことができる。 【書くこと】

○ 順序を表す言葉の意味を理解し、正しく使うことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4 指導計画 (せつめい名人になろう：12時間扱い 本時 7/12)

次	時間	学習活動
一	2	単元の学習のねらいを知り、学習の見通しをもち、学習計画を立てる。
二	5	「しかけカードの作り方」を読み説明の仕方を考える。(本時 第5時)
三	3	学習したことを活用して「おもちゃの作り方」の説明書を書く。
	2	友だちの説明書を読み交流する。

5 本時の指導について

(1) 目標

「せつめい書のひみつ」をまとめることを通して、上手な説明の仕方に気付くことができる。

(2) 評価規準

観点	B おおむね満足できる	Bに到達させるための手だて
読む能力	問いや呼びかける言葉に着目させ、さらに見つけたひみつをまとめている。	前書きや<つくり方>を抜いたワークシートを配り、本文と比べさせることでよさに気付かせる。

(3) 指導の構想

黒板上に学習過程を掲示し、本時の学習活動を見通すことができるようにし、主体的に学習に取り組ませる。終末では、読者を意識した書き方のよさに気付くことができるよう、記述による振り返りを行わせる。

(4) 展開

段階	学習活動	形態	○教師の働きかけと指導上の留意点 ●評価の観点(方法) ☆見通す・振り返る活動
導入 5分	1. 前時の学習を想起する。	全	○ これまでの学習から「せつめい書のひみつ」をまとめること をおさえ、課題を設定する。
	2. 本時の学習課題を把握する。		
展開 30分	3. 課題解決の見通しをもつ。	全	☆ 前書きと<つかい方>の必要性を話し合い、「せつめい書のひみつ」を完成させることを確認する。 ○ これまで学習してきたことを発表させ、共有化する。 ○ 説明上手になるという目的意識をもたせ、はっきり音読させる。 ○ 写真を指差して読んだり、接続語や数値など大切な言葉はゆっくり読んだりすることで、筆者の工夫を意識することができるようにする。 ○ 前書きと<つかい方>、読者を意識した書き方の良さに気付くことができるようにする。
	4. 課題を解決する。 (1) 教材文を音読する。	全	
	(2) 前書きと<つかい方>の必要性を話し合う。	ペア 全	
	5. 本時のまとめをする。	全	
終末 10分	6. 学習を振り返る。	個	☆ これまでの学習を振り返り、「せつめい書のひみつ」に触れて自分の学びの評価を行う。
	7. 次時の見通しをもつ。	全	

ひみつをもう一つたして「せつめい書のひみつ」をかんせいさせよう。

- ・ 読む人が、作りたい気持ちになるような、ことばを入れるといいことがわかりました。
- ・ 読む人に、話しかけるように書くと作りたい気持ちになることがわかりました。